

森を育てる会の概要

名称	福岡市油山自然観察の森「森を育てる会」
設立	1995年（H7年）
目的	油山自然観察の森の保全活動を通じ広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行うことを目的としています。
会員資格	小学以上。ただし、中学生以下の参加は、保護者または引率者の同伴が必要。
会員数	57世帯：77名（06年3月現在）
会員構成	男女比／3：2 年齢構成／70歳代～小学生
会費	一人1,100円。世帯で加入の場合は一人増える毎に500円ずつ追加。 ※07年度より、1世帯1,500円（学生は1,000円）。別途、保険料一人500円。
代表	古川哲郎
活動回数	月に2回程度
活動内容	1) 油山自然観察の森内の保全活動 ①森を育てながら 様々な生物のすみかをつくる ②生物の観察・森の恵みの利用を通じて自然に親しむ ③油山に分布する多様な自然環境・特有の景観を保全する ④人間と里山とのつながりやあり方を考える 2) 会員同士の親睦を深め、また資質向上を図るための活動 3) 緑地保全活動を啓発するための活動 4) 「油山自然観察の森」の運営への協力 5) その他
所在地	〒811-1355 福岡市南区大字桧原855-1 福岡市油山自然観察の森 TEL：092-871-2112 FAX：092-801-8661 http://www.morikai.org/morikai.htm （森会 Web）

アクセス ● 車でのアクセス

油山観光道路を南下、油山観音正覚寺手前から左折後、油山駐車場ゲート（駐車代：300円）。

● バスを利用する場合

- ・ 天神から：13番系 - 桧原営業所行・「油山」バス停下車歩約1時間。
- ・ 臨時登山バス：3月～11月までの土曜、日曜、祝祭日に「福大病院東口」～「市民の森」臨時バスが運行。



関係施設

(1) 福岡市油山自然観察の森

標高 597m の「油山」の中腹に位置し、88 年に設置された全国 3ヶ所目の自然観察の森。

面積 23ha の全域が鳥獣保護区。一部、保健保安林、水源涵養保安林。

設置主体：福岡市（所管：農林水産局農林部農業振興課）

管理業務：（財）福岡市森と緑のまちづくり協会

(2) 自然観察センター

年間約 2 万人～3 万人の来館者のある油山自然観察の森の施設。来園者への自然解説などを実施。

（財）福岡市森と緑のまちづくり協会から（財）日本野鳥の会が業務委託を受け、野鳥の会の職員（レンジャー）が業務を担当。森を育てる会の活動支援（サポート）も行っている。

油山市民の森管理事務所（管理業務）
（財）福岡市森と緑のまちづくり協会

業務委託

自然観察センター
（財）日本野鳥の会

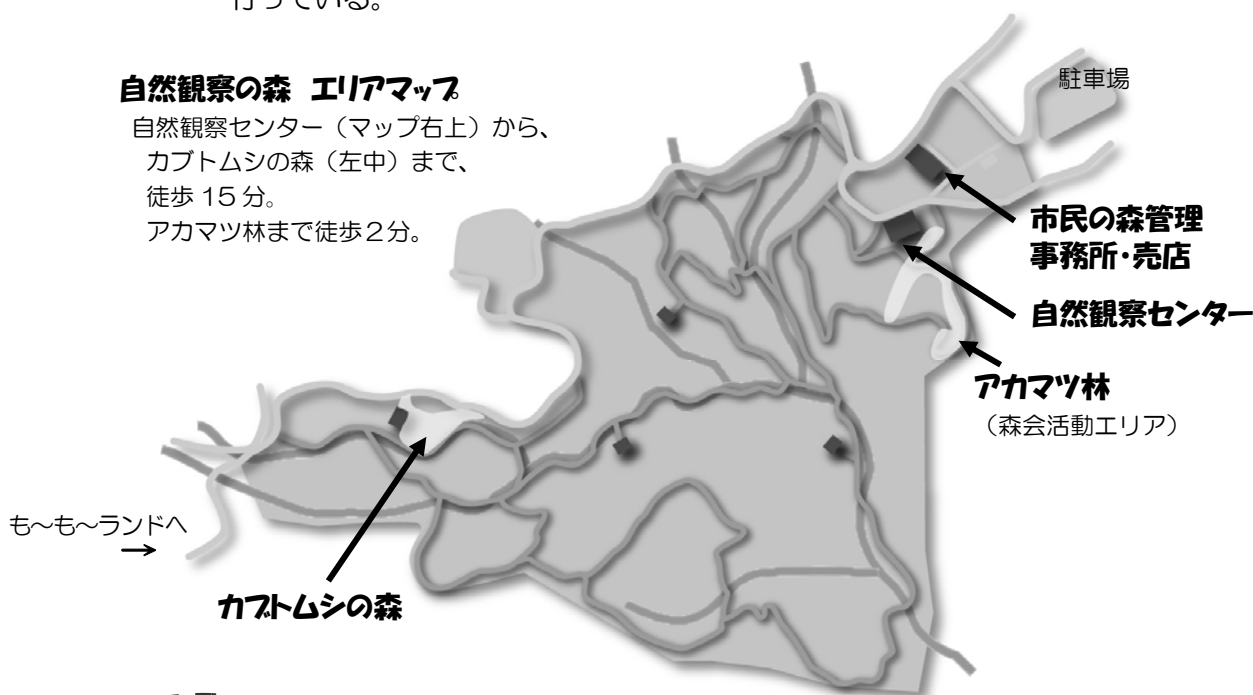
活動支援

協力

森を育てる会
（市民ボランティア）

自然観察の森 エリアマップ

自然観察センター（マップ右上）から、カフトムシの森（左中）まで、徒歩 15 分。
アカマツ林まで徒歩 2 分。



森会の歴代担当レンジャー

95年 ～ 99年12月	中村 聡
00年 1月～01年 4月	東 陽一
01年 5月～02年 3月	橘 優子
02年 4月～03年 9月	東 陽一
03年10月～	掛下尚一郎

森会役員の在籍

会長	古川哲郎	99年 1 月～
会計	谷口賢一	01年 1 月～04年 3 月
	安部泰男	04年 4 月～07年 3 月
	岩尾 襄	07年 4 月～
事務局	柴戸慶子	02年 4 月～
広報	森 順子	02年 4 月～05年 3 月
	西村裕美	06年 4 月～07年 3 月
	川上 寛	07年 4 月～
会計監査	下川喬之	01年1月～02年3月
	森美記文	02年4月～03年4月
	上田謙二	03年5月～07年3月
	安部泰男	07年4月～

1 年間 24 回の活動のなかで多様なプログラムを実施している森会。会という組織の意思決定・分掌の仕組み、情報共有、1 2 年間の活動（プログラム）の立案・実施・評価の仕組みは？

森会(組織)が動く仕組み

うん・えー会 2ヶ月に1度開催。前後2ヶ月の活動を振り返り、予定を確認。会唯一の決定機関。会員誰でも参加できる。

世話役 各活動プログラムを企画立案しうん・えー会に提案する。担当活動を運営する。

役員 会の全体的なマネジメントを行う。以下のような作業を分掌。各1名。

- ・**代表** 会を代表する。名簿管理。年間計画素案取りまとめ。会宛のアンケート等に対応。
- ・**会計** 年度予算案を作成しうん・えー会に提案。出納事務。助成金事務。会計報告。
- ・**広報** 広報全般。会報編集・発行、ホームページ・ブログ運営。
- ・**事務局** 物品管理、保険事務、振り返りアンケート、ハンドブック、うん・えー会、調整。

役員補佐 各役員を補佐する。役員から依頼を受けて就任。役員はうん・えー会で決定。

レンジャー 油山自然観察の森で自然解説業務を担当する（財）日本野鳥の会職員。森会の活動へのアドバイスや、施設管理者と会との橋渡しなど、ボランティアの活動支援を行う。

1 年間の活動(プログラム)が動く仕組み

年間計画 2月年度末うん・えー会で次年度24日の活動日、何の活動に何日を充てるか決定。各世話役がいつ、何を行うか検討し3月うん・えー会で次年度年間計画決定。

年度のふいかえりアンケート 年度末に全会員対象に実施。活動内容の評価（楽しかった活動・やめたほうがよいと思う活動）、会活動・運営への参加・参画についての意志、改善すべきこと、わからなかったことなどを記入・集計。次年度の活動に反映する。

活動説明会 油山自然観察の森主催行事のひとつ。森会は運営協力し市民に里山保全体験の機会を提供する。説明会の最後に森会への入会を案内する。会員の主たる入会ルート。

ボランティアカード 活動日に料金所で提示すると駐車料金が免除されるカード。自動車で活動に参加する会員に配られる。ただし活動日以外の使用はご法度。

1 日の活動(プログラム)が動く仕組み

実施計画書 会の活動計画に沿い、安全で円滑な活動を実施するために02年に導入（31頁参照）。活動日1週間前までに世話役が作成。代表、会の安全担当（07年度から数年ぶりに復活）、施設担当レンジャー、関係世話役を実施1週間前に送付。

係り 活動日は世話役が中心となって運営し安全面では安全世話役がサポートします。また道具を管理する道具係り、飲み物をお世話するお茶係りなどがあります。入会歴の浅い会員にお茶・道具係りを依頼し運営の一角を担ってもらうよう心がけている。

実施報告書 作業の課題や成果、参加者氏名、感想などを記録し振り返りツールとし、広報に流す。

広報&情報共有のためのツール

ハンドブック 森会の概要、保全目標・計画、規約、年間予定などを掲載。会員が活動に参加しやすくするため入会時、年度初めにお渡しする。

森会メールنگリスト 活動日前の参加呼びかけ、活動後の実施内容の報告、その他イベント情報や参考になりそうなTV情報など、会員登録者がメールをやり取りできるようになっています。01年9月に開設以来07年3月11日現在で1312通の投稿があった。

森会 Web 03年9月に会の公式HPとして開設。洗練されたデザインとアースカラーで統一され、分かりやすいページとなっている。Web製作・管理は会員の中村俊紀さん。

チラシ 会の活動や概要などを紹介した会員勧誘のためのA4裏表三つ折。カラー化が課題。

ポスター 06年度活動説明会の広報ツールとしてA3～2サイズカラーで作成。市民の森、近隣地域に設置した。費用対効果が課題で継続は検討中。

森会ブログ 07年1月より、複数の投稿者による迅速な情報提供の場として森会Webを補強する目的で開設された。開設・管理は西村裕美さん

森ものがたり 会の広報紙として95年6月、木村素子レンジャーの手描きのB5用紙1枚からスタート。95年に冊子形式になり、97年に隔月発行が定着。98年5月号より会員の園田尚子さんが編集担当となり、98年9月号から森順子が担当。93年より西村裕美さんと95年より鎌田隆さんのサポートを得て、通算71号（07年3月現在）を数える。



会員数の推移

96年度末：38世帯
97年度末：50世帯
98年度末：71世帯
99年度末：62世帯
00年度末：51世帯
01年度末：49世帯
02年度末：—（記録不明）
03年度末：60世帯（82名）
04年度末：62世帯（83名）
05年度末：—（78名）
06年度末：57世帯（77名）

主な収入と支出

02年

収入／会費 60,300円 助成金 158,000円
寄付 29,840円

支出／活動費 219,361円

03年

収入／会費 589,000円 助成金 120,000円
寄付 54,707円

支出／活動費 182,000円

04年

収入／会費 70,700円 助成金 120,000円
寄付 77,559円 謝金 50,000円

支出／活動費 199,604円

05年

収入／会費 68,500円 助成金 148,000円
寄付 34,100円

支出／活動費 227,210円

マスメディア等の広報実績（一部のみ）

97年5月 「リビング福岡（情報誌・30万部）」	03年9月 NHK「ふくおかくらし発見」TV紹介
98年1月 「リビング福岡」年末年始特集	04年3月 西日本新聞「スローライフ」
98年2月 西日本新聞「都市圏ふくおか」	04年4月 RKBラジオ「林田スマのホットイガー」
00年5月 KBC TV番組 活動紹介	06年1月 「リビング福岡」
00年6月 NHK 夕方生放送出演	06年4月 西日本新聞 活動紹介
02年4月 TNC「みんなのふくおか」TV紹介	06年7月 TVQ九州経済NOW
03年1月 読売新聞「ふるさと自然」	06年11月 読売新聞「oh!エンカ」

資料 3-1

＜比較的平坦な場所＞

現在は樹木の密度が過密になっており、放置すると枯死するかモヤシ状になってしまう。樹液が出る大木を育てるために、クヌギ・コナラを優先的に残して、成長が良くない木を間伐する。（適正な密度にするために現在の1/4程度の本数へ）

＜谷間で、一部岩盤が露出＞

間伐を行い、原則としてクヌギ、コナラなどの大木を育てる。地形の関係から大木が育ちにくい場所があるかもしれないので、その点を考慮して計画を修正していく。

＜急傾斜面＞

急傾斜のため、大木は育ちにくい。崩壊防止のため、斜面の保護が必要→中低木を中心にして根を張らせ、斜面を保護する。高木は株を残していったん伐採し萌芽更新させて、中低木にする。

＜林縁部（林道沿い）＞

園芸種であるカイズカイブキが植栽されているが、カブトムシの森の雰囲気にとぐわれない。しかし、除伐すると森の風通しが良くなり乾燥化が進み、昆虫類の生息に適さなくなる。そこで、他の在来の樹種に転換できないか検討したい。

基本的にクヌギ・コナラの大木を育てる

カブトムシの森の基本計画から、本来油山にない樹種（外来種、園芸種）は除伐する。但し、高木については景観などへの影響が大きいのが残すかどうか個別に検討する。

＜ヤブツバキの暗い林＞

谷間の低い場所で日当たりが悪く、地形的にクヌギ・コナラの大木は育たないかもしれない。

＜ベランダ前＞

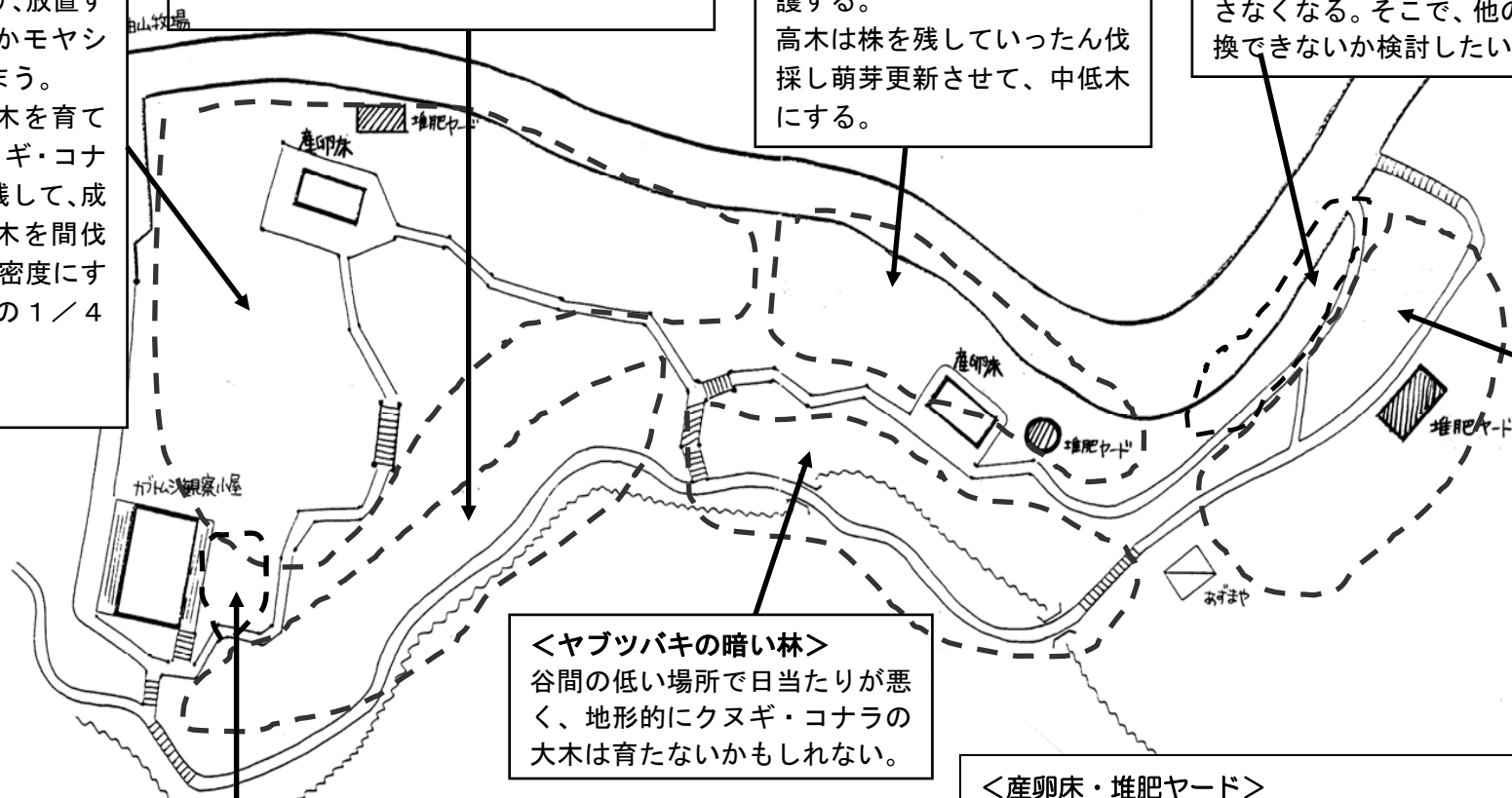
観察小屋ベランダ前のクヌギ、ユズリハなどが伸びて、視界を遮っている。見通しを良くして、来園者がカブトムシの森を一望できるように、間伐をす

＜野外解説板＞

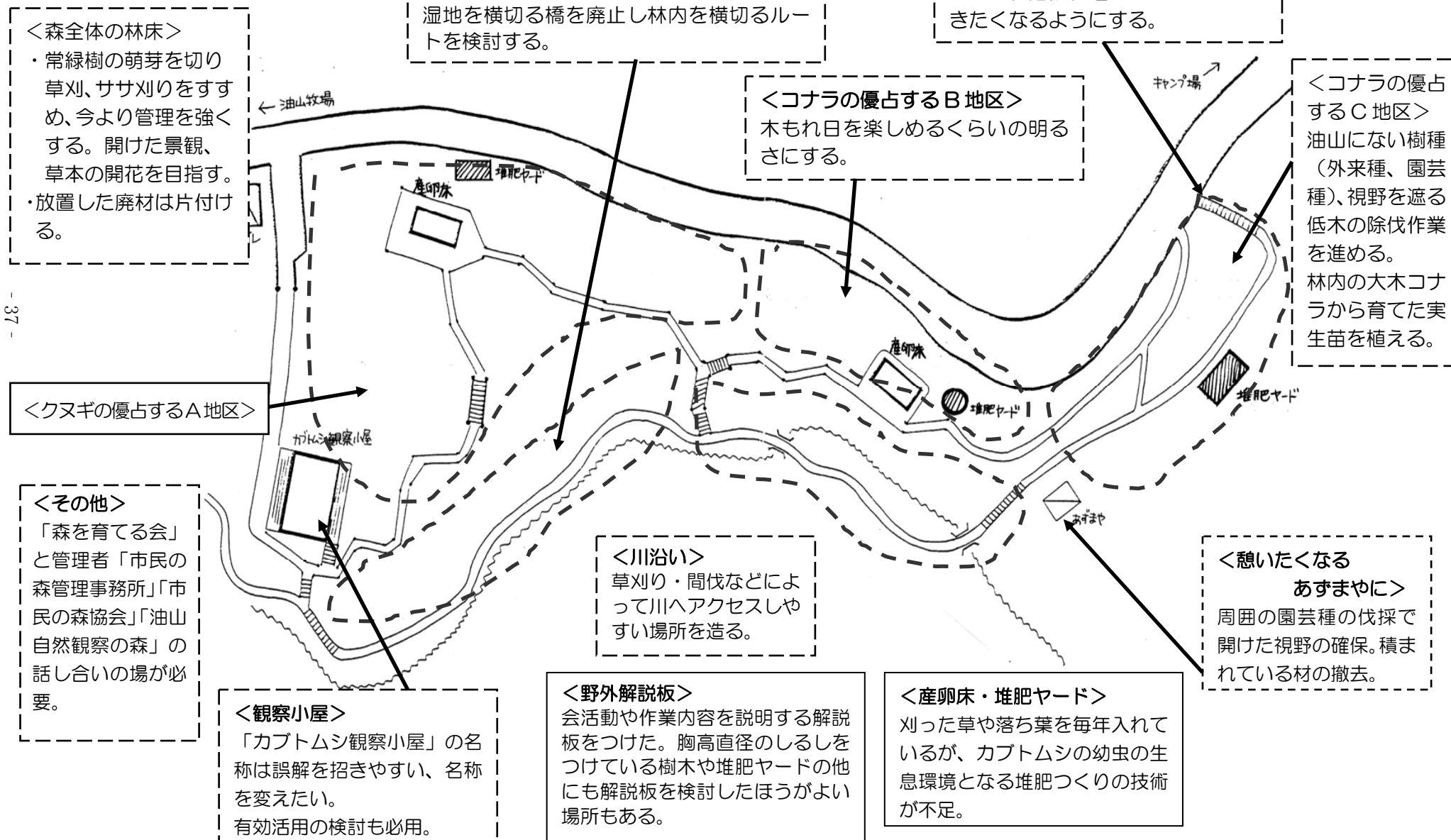
産卵床などに付けている野外解説板が古くなっているので、新しく作り直す。それによって、来園者が昆虫類の生活や雑木林の復元作業に理解を深められるようにする。

＜産卵床・堆肥ヤード＞

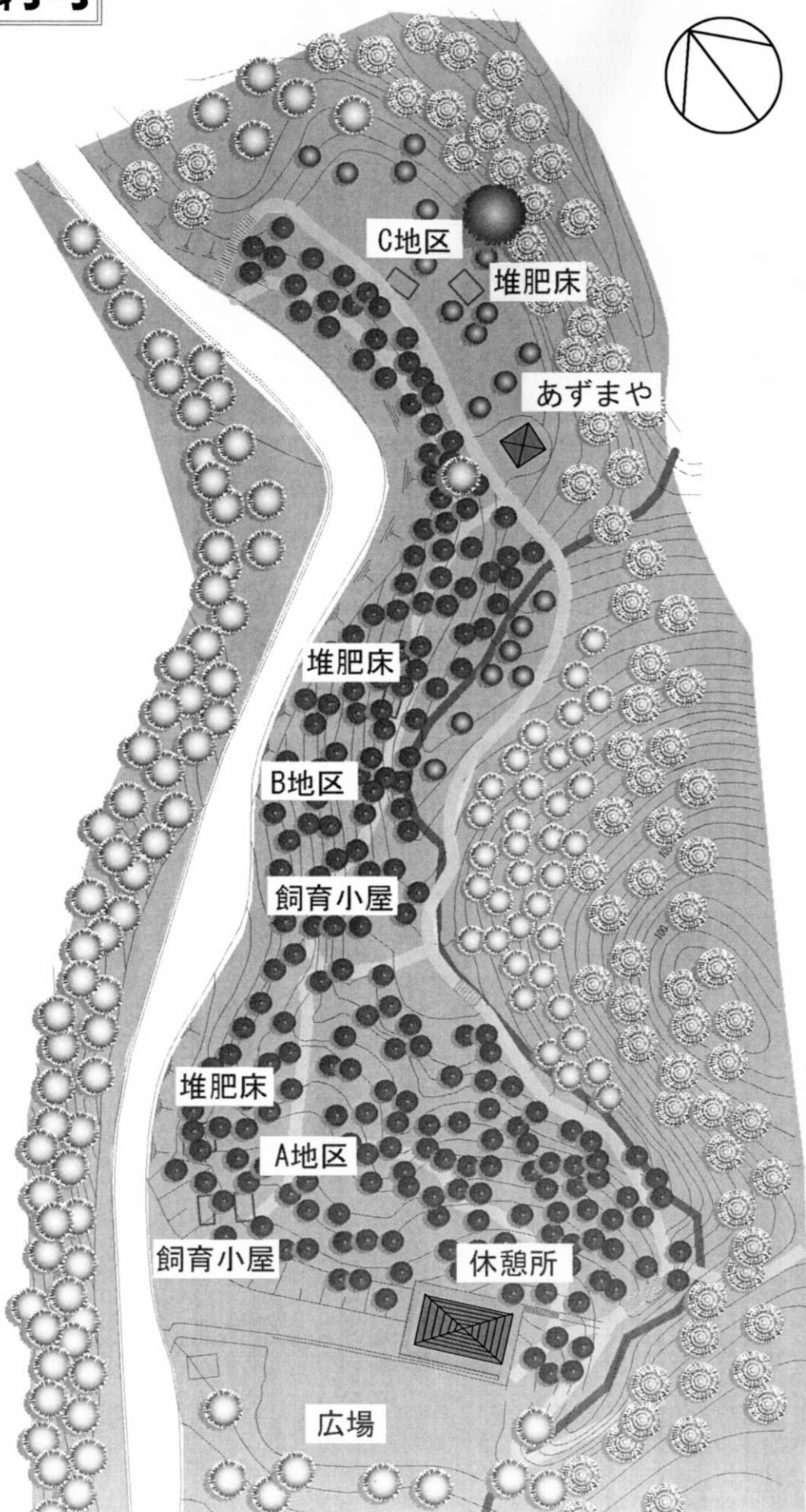
刈った草や落ち葉を毎年入れていき、腐葉土を作って、カブトムシの幼虫の生育環境をつくる。成虫の産卵・幼虫の生育が毎年繰り返されて自然発生できるようにする。発生状況の把握と、環境に合った適正数を保つために外部からの補充は行わない。



資料 3-②



カブトムシの森全体平面図



0 70



資料4

森会のアカマツ林保全2006年冬以降の5ヵ年計画

- ◆ 会の基本的な考え方 「いつも元気なアカマツ林」
作業の観点
A 1本1本が元気な木であること
B 代々続いていく林であること
C 会員以外の方への開放(広く市民に知ってもらう)

BOX

ギャップ:

森の最上層の木が倒れたり枯れたりして空間ができている場所

落葉かき:

雨水の浸透、菌根菌の活性化のため竹箒で葉を除去すること

地かき:

種の定着発芽を促進するためレーキで、畚物層が出るまで地面かくこと

◆ 今後の保全方針 (2006年7月うん・え一会)

アカマツの単林の方向で保全する

- ① 常緑樹を伐採する
- ② 落葉落枝を除去する
- ③ 利用者の安全に関わる斜面の崩落などが起きないように作業をすすめる
- ④ マツ枯れ被害木の処理方法は管理者に提案していく
- ⑤ 落葉樹の残す対象は検討
- ⑥ ここ5年程度の作業計画は作業で出た材の利用、会でできる作業量、安全なども考慮して世話役が作成し9月うん・え一会で提案(20-30年の若い林を目指すか大径木のアカマツの森かなどの目標については当面状況の推移を見ながら考えていくとした)

⑥

アカマツ単林化について 世話役より

センター裏のアカマツ林を今まで単林と混交林として観察してもらえようというエリアわけをして作業してきた。しかし勉強会でアカマツは光と水の争奪に弱い植物であることを共有した。アカマツは遷移初期にでる植物であり、落葉樹などまじった状態は遷移途上の状態である。幹直径の大きな立派なアカマツ林は油山の他の場所にあるが遷移初期の状態のアカマツ林は多くない。それでセンター裏の森会管理地アカマツ林はアカマツのみの林のタイプとして保全し、多くの市民にアカマツについて知っていただけるよう活動していきたい。

森を育てる会 アカマツ林保全5ヵ年計画(案)

2006年11月11日 提案 アカマツ林世話役 迫盛寛

	会内・施設と作業内容を共有	常緑樹伐採①	落葉樹伐採①	落枝除去②	落葉除去②	シタ刈り	材の処理落葉常緑広葉樹	材の処理アカマツ枯損	アカマツ枯損の観察	斜面の崩落など注意③	枯損アカマツの処理提案④	調査	広報
目的	有効で円滑な作業	水・光をアカマツに集中する。		水を根に届ける	更新・水	更新・水	材の有効活用	サイセンチュウ防止	サイセンチュウ防止	安全	管理内容の共有	林の変化を把握	市民に作業の意味を伝える
作業内容	年間活動予定をつくる 活動日前に実施計画書を作成する。	エリア全体に直径15cm以上は15本程度。1回に3本伐採。伐採日に材の片付けも行う。その他萌芽かき、低木の徐伐は適宜行う。子供や初心者むけの作業は確保を心がける。		ヤードに1本入れる	全体を年に一度は落葉かき。時期6月から10月。ギャップができたら地かき。	全体を年に一度は刈る	土留め階段工持ち帰り材	胸高直径15cm程度までの枯損木は会で伐採し冬の間に火を使う行事で活用	状態が悪くなったものを確認「活動ノート」に記録	下見・作業後ふりかえりで確認する。	施設を通じて適宜管理者に作業状況を伝え、適切な案は提案	1.3m以上と以下にわけ調査区を調査	看板、パンフレット、ウェブ、紙芝居、セルフガイド、樹名板など伝える方法を検討し実施。
年間必要日数/実際は半日ずつ組合せなど			0.5	毎回	1	0.5		0.5				半日/隔年	担当を決め随時実施
備考	残す予定のしつけののち計画案を施設と確認	⑤残し方(案)常緑・落葉ともルート沿いを中心に観察資源として一種1本程度残す。事業最初に確認作業						マツノマダラカミキリが出て行かない作業手順共有遵守					
年度末	年度末に会員全体で現地を見、作業記録、進捗状況、成果・課題を確認(1時間)												